

大切なもの学んだ

「ものづくり」の楽しさ

下松、新幹線の板金名人講演



アルミ板からつくられたバイオリンに触れる児童たちと、山下清登さん（右）＝下松市

新幹線の先頭車両製造で知られる山下工業所（下松市）の山下清登・前社長（81）が29日、市立下松小学校に招かれ、6年生118人に「ものづくり」の苦労や楽しさを伝えた。

同社はアルミ板をハンマーで打ち出して複雑な曲面を作り出す「打ち出し板金」の技術に優れ、流線形をした歴代新幹線の「顔」づくりを担ってきた。

「私のものづくり人生」と題した講演で山下さんは、中学卒業後に就職した修理工場で板金を覚え、初代新幹線

（0系）の試作に関わるまでを振り返り、「失敗してもあきらめず、自分のやりたいことを見つけてほしい」と語った。

山下さんは、新幹線と同様の手法で製作したアルミのバイオリンも持参した。PR用にと、名器ストラディバリウスの設計図をもとにつくり、音も出せる。児童らは、精巧な出来栄えに技術の高さを実感。田崎秀平君（12）は「新幹線がこんなふうに進化しているなんて」と驚いていた。